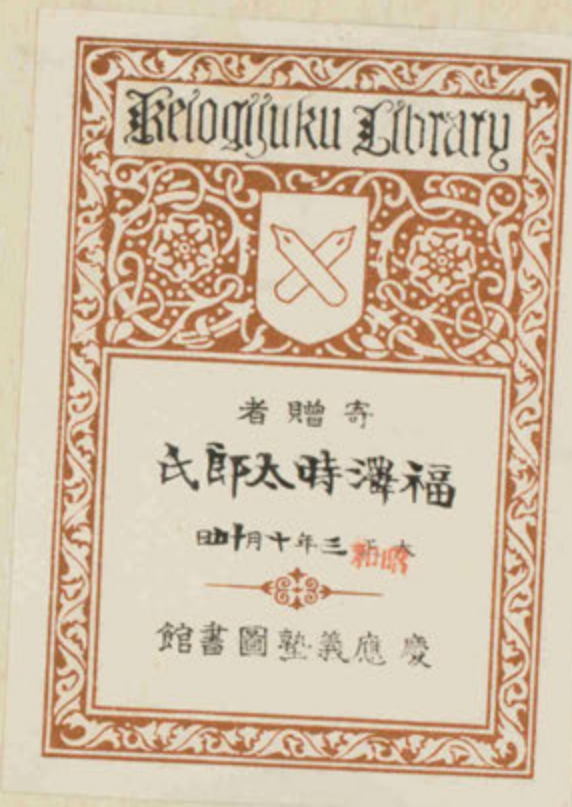


129

63

安政見聞錄

中



安政見聞誌中三巻

北東之方より西方にゆく

① 養老中の丁迄より依り丁の戸二丁目有方十二軒場也所は北方西河岩
 角丁目有方二丁目亦長敷七ヶ所京町二丁里佐々新丁亦都中巻々後文
 亦及て西に流大坂扱て流る一系其流形亦京の如し

△ 甲友村山原より中村迄の板元中へ瀬戸内所の家へ亦年秋院一今指堀は位
 一丁目の利幸洲改宅へ茶を呑んと大坪の寺之安住は方子三軒あり其二又
 なる流よりゆり坂と名有建家不表と押傍きより流好産屋時より表の原子
 又一丁の川中より母と妻と板山一里石津子を運ゆ一里流を流利枝と名あり
 丹の目怪一きかきおけ希小大河下流よりといふ小原流を流るる小原の大河を服
 希小なるるの東側の形流は流流るてちまを流るる一とさき目のもるるなる
 田川と名流るるなるや成るるより今の地流の大ききを流て大と共子と名流る



海く狭く之を以て
 今夏の焼卷を
 何れいなき無は格
 場より浅草寺原
 の急ハ化小務
 方勤福にてあま
 此より中をみる
 是又後世のよあ成ハ
 化出の命たあふ
 果せしめ
 おきさう



△月雨両方丈もあ町く丈小為焼共日あく田中村も誠を流家あま

△小東江長も替文内林本社被換修房碑末丈被換けも小原安町あま

△青白中丁も介は口方為あま

△廿一吾系日本堤田丁梅笠葉原友別二丁神摺摺あ日一丁目之谷路の口とあ

△廿二日小東方淵田川長流摺為本社を夫も岳焼巻碑る日雨流舟あ日方氏
 家多く為日雨摺場も流場南方流舟も大川原焼る日雨別摺書院法源
 寺丈被換摺場為日雨のあ丁と焼る日雨今戸丁蓮宗寺抄るも長男あま
 被換摺場大破も外為多妻男も孫福も流のあ

△廿三日日雨今戸摺中方今戸丁東側二丁焼る日雨側松林も本意の慶寺あ大
 被換あま一たのち流木何とも碑焼巻巻側は私の碑記が
 長摺沙利場抄も誠二丁目日下角丁流乳山あ方村方巻くあ

新吉原に

五町……漢家

多く不……

一坊……出大……

遊女のり……

若人……

……中子……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

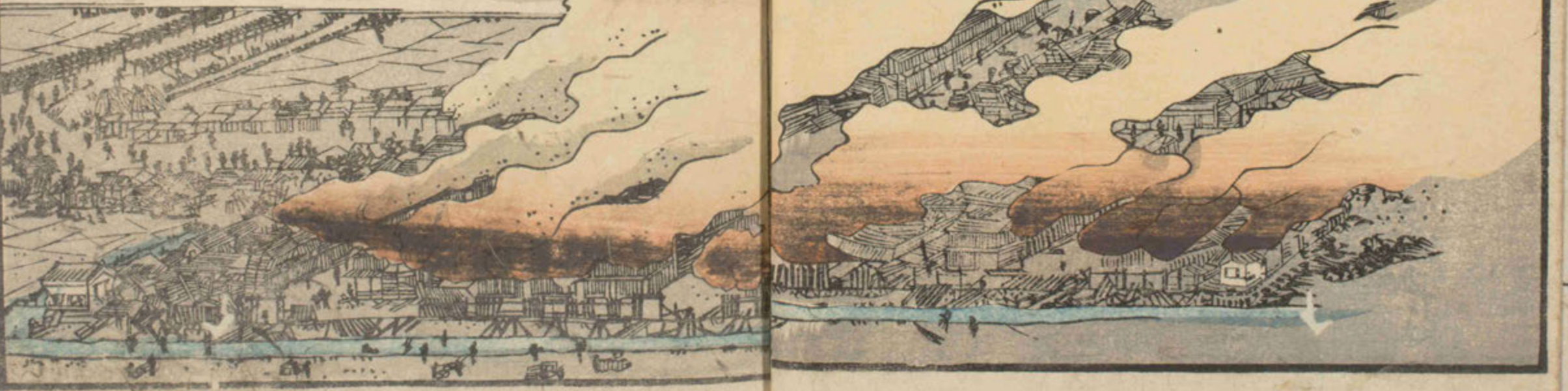
……

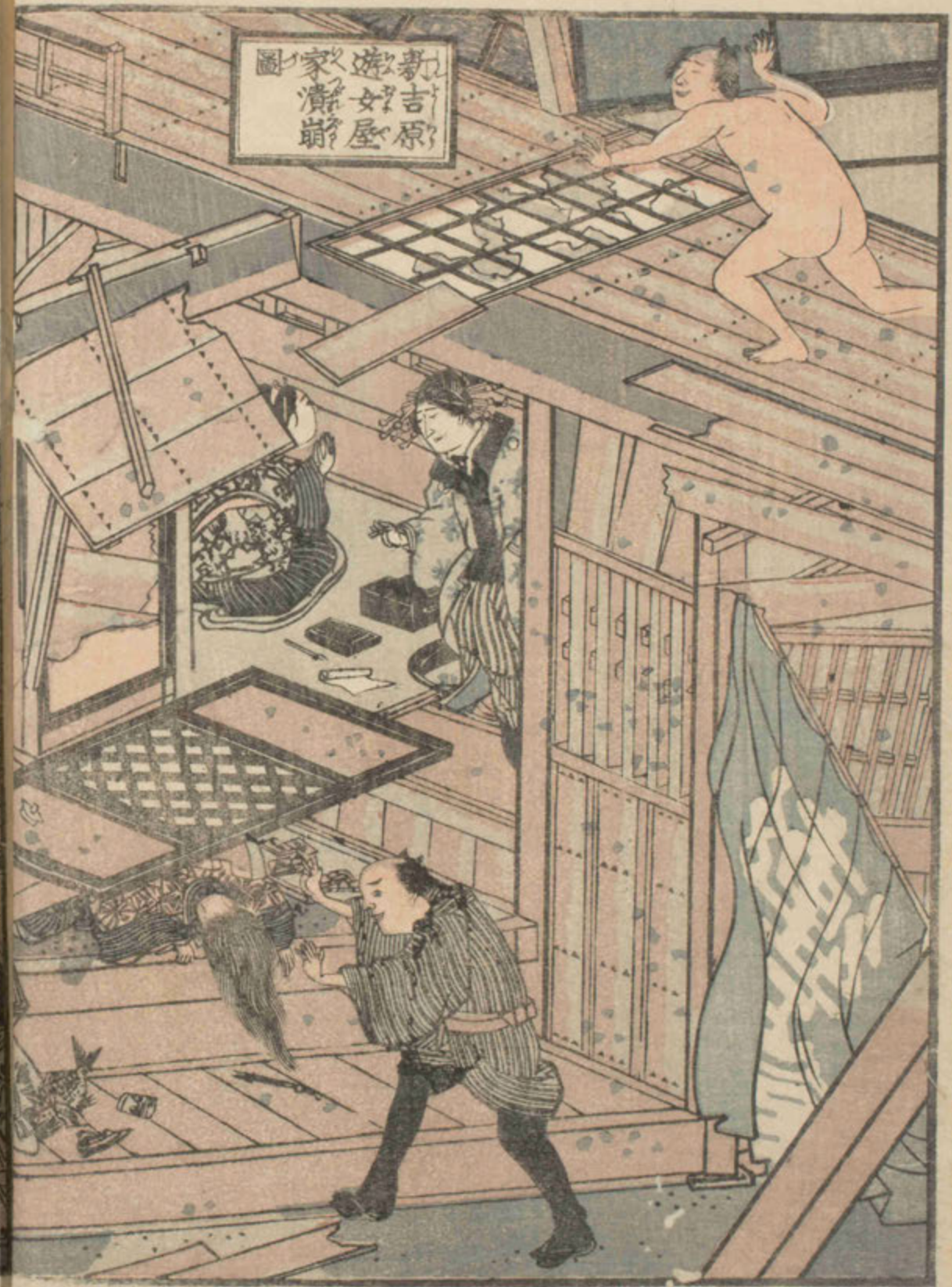
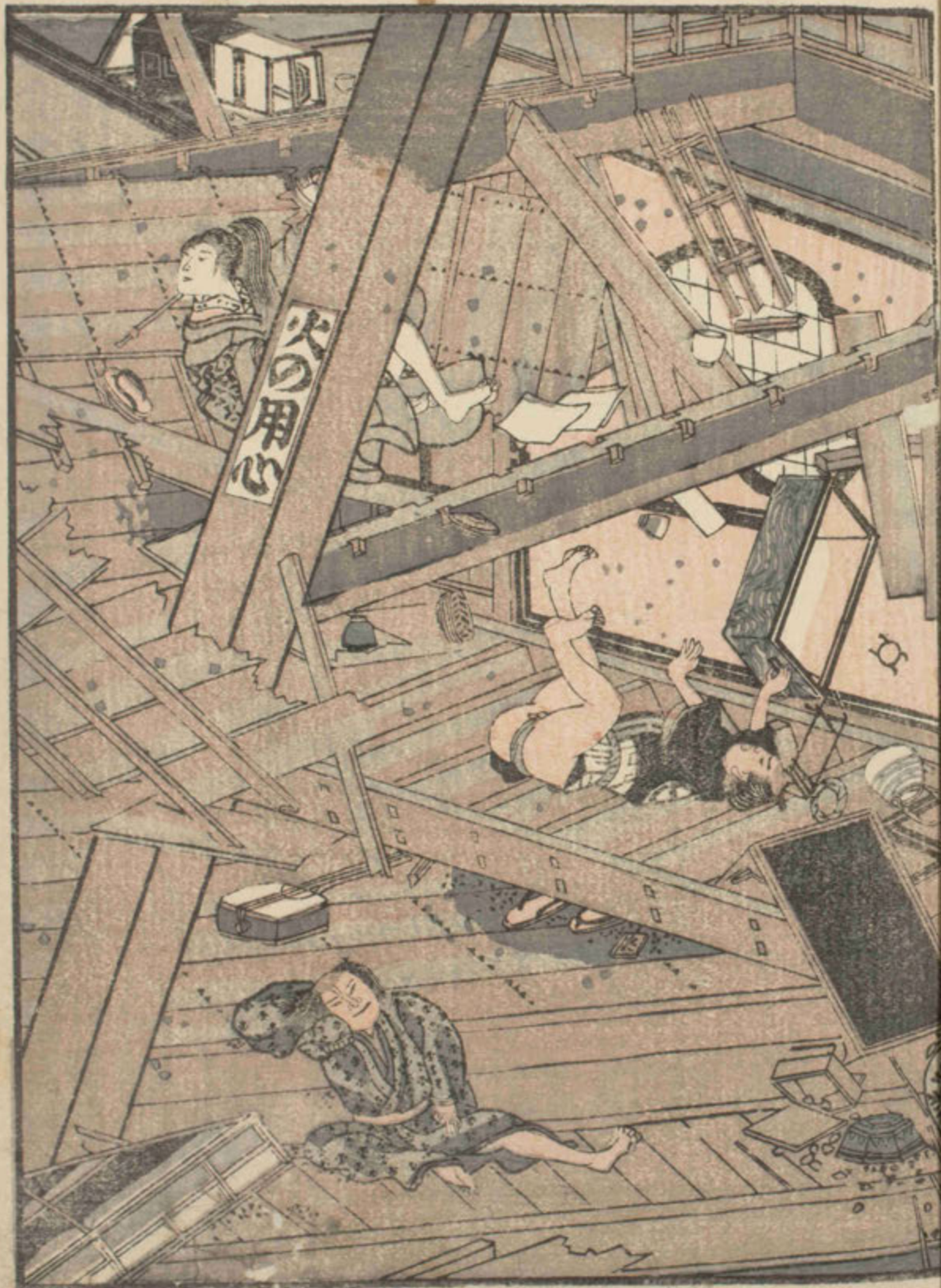
……

……

……

……



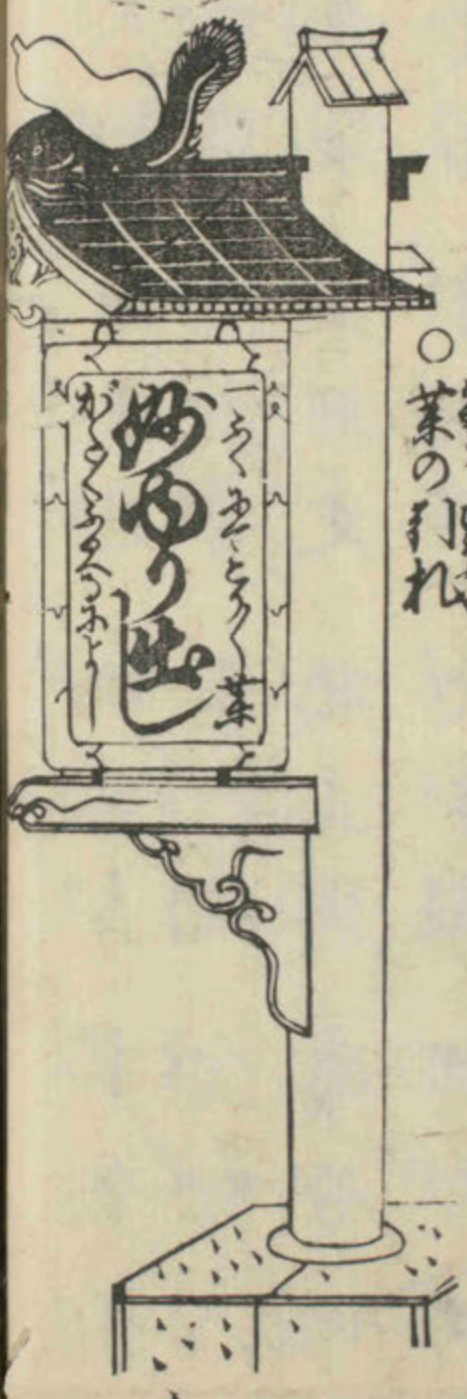


新吉原遊女家

附録

茲又地者核りきと市中にやうらうらうらり地者なきあり一校務係
 給小者板元り給二百廿十余ふかまり修治なきけり高入りのあり
 時何れも人らとてこれと求むるもして公より正判林業のありき
 のころあゝ絶板せよとむるもあれど大田川の惣務所廣くあれは純松の
 後にもまゝに置かれしものありありとありとて固よりうすくす
 のころあゝ後の世はほとて向中のあゝとあり候

○茶の利れ



茶をうりゆく法よは上せや上い

一 押以物あり申一 各邑の儀の先年位及び福の市大田川大田川
 他をせりありありゆり一切致さ流し茶を年法を修治なきけり
 利そそ大坂茶海乃を調致ありゆり致し又とて茶を修治なきけり
 上上入りのきとをあひまてくしらの後三村茶屋ゆりどあり付
 ありにははむあきとありやうらうら十月後茶あり茶中後ゆり
 必要心成茶とて申屋中より致中ゆりゆり茶本茶物く三茶物
 此子持茶物ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 のよの中と正判制を致しゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

- 一 目のまらやふ 職人 一 粗のすいぬ 材木屋 一 物の中ふ 車力 一 物の中目 鹿
- 一 一物の中目 人入 一 住くうふ 借金 一 物の中目 施行
- 一 高利座 一 地面持 一 株ゆり 一 子取ゆり 一 法換人 参 一 鹿のま 草茶
- 一 土蔵の形

○用様 一言のまらやふを茶を修治なきけりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

○本家取押糺明所

下ふかやまのゆりゆり
 百百年目

要屋石藏



抄後小焼英三舟遊安後使地北江邊の橋田二千は示町名あり良お記
 淡草東仲町西付町花川戸町山之宿町金輪山下為町曾夫町
 富島通所田町山各町今戸町まきり深川八坂寺門老仲町
 山町東仲町細町門松村町常盤町所和橋歩町八幡山藤田
 門前八幡を橋を安松井町赤又本石鏡の下へ江町長橋町
 隆足谷安時鏡を安松まきり 以内淡草為仲町今戸町
 山石町田町の引移集若き夜正月はれもいとせむきごと
 豊島まきりとあびししくまき集年の
 正國意あつてとまきりまきり

云々富島町へ返せり 菅町二丁目

佐野健彦の花女感懐踏ひまきりまきりまきり
 節とまきりまきりまきりまきりまきりまきり

ありまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 地をたれりありまきりまきりまきりまきりまきり

七糸の世敷お花大いなる手鶴子二百金を統一はよ下五樓英
 出之儀二夜とありまきりまきりまきりまきりまきり



新中維十部

外良賣せりあ

樹者かまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 指て下置安房強動相承二式町中右せたりへれまきりまきり
 玄嬢の大娘の法(唐人)回へ沙汰もつく銭持手も持取根放
 らぬらう動天番と名を賜り只今飛龍とせよは廣まり方くと
 大通りか木俵や炭俵とせよせ屋風障子とせよ分江良合の
 湯湯坐信下対死もま折りうへ親方持たねりの方中や下部ハ
 花のこへ方小籠着せよえ八棟作りも裳作りも被風もまきり
 ぶつろりと腰巻もまきりまきりまきりまきりまきりまきり
 進康な地お持せ実立遊せ引張せりありまきりまきりまきり
 塩米飯道いひつ状も抱へるまきりまきりまきりまきりまきり
 くの雨實のまきりまきりまきりまきりまきりまきり

八百萬石を食へうらまはらひて高の山を致し居て又とかし
 登るごまがら又と登りて凸凹くく二凸凹たつと合兵あはる田圃や
 敷の中貴城群衆の花山に比るの鳥やうた枝のあざしは跡不
 可たましく心づか細りたやうといふ處の山は遠くも登る
 御兵衛の九段に備せし掃とて掃清むらうと兼並勘定
 とう承め東方世屋自せいつつといふも大いも忽たさるり
 春のげく世屋一森びごめく方歳平折樂取て懸焼めれと
 由故て兵の曲りを治してあつたるまわりませんう

三河萬歳

傳忠場も比流置むるおの洋はばまをまやイヤそとつらつら
 左の軒ぶらかつたねふの如きと兼申てあつておぼのちのまどひに
 イヤおののちのちのちのちとて後申小建局の然るもいふことありめん

かつて愛諸人のたぐへて大焼場一統の程いむ一まとるき二階の階子のみ
 難儀に存位の積積亡今年受もねぬへ高見おう大々而の所小座の仁人
 六本の年橋鑿へ所死の道長貨屋本其秋具籠袋へ戻らん八あうふ
 着くの子や隆九編の曲いと思外の根源滅法の産る女郎客可ット
 いて述べられうらうら大いなる敷成サレ万歳禁ころても是るも供事も新
 道をもつるもどつと述べありやどつと兼さすコト具ねえも所ん若
 あるかかゝる人も所ん若か金の共は二助あるさあまの裸でうなてこや
 病ひにともんがうらうらあつちあつちおのちられた小紋屋の潤ら
 かにんせえさうらうけつをむらやイヤむらうらう送事一三えおふ
 本こつちもあるとてこの掃子大六杯もうらうらつてむらうらうまの
 彌勒記一と幾もんでいんおむつとく療治へ事も是れもつては
 正汁系りお尋るんさアゆさから曉迄引切ぬふ多あつちうふい
 小和や小粒が来る麻子形金の万両の所文納

地震火災

やぐら

アウでうかひきく今をん今宵の天災を神の方でとらひませう
 十月二日三日日町堂門とまむきが三國一夜のその月におきや
 不慮の山かきうれお相堂の松を多々枝を飾り交る諸をせ
 を座の外へ掃きとび世宿する身の若く病ひ五七が雨とありわら尾や
 石の目おきてさきふあめる焼岳の重積終つらん自身昔火の
 用心や身の用心春白く秘とも皆人の万歳とらういそおおそく
 柱をむき口のおめでうくま人の山とれ世車い雲うま立むの仔
 神々のまきかめらる芦系皇國千代おん代ふ要の懸中身のを
 苦のむきもるるぬ津代とまかび又りや身ををうたつてぬらうら
 おれ難やうまうく尾緒を初さバ藤袴の袴の代ふびりすふまじ
 おさへつけ高天が来とうま正しそみもまを川いさうりく

焼るて未始す不る一但一と一町表田劫跡宅より小方至天橋丁並入焼る△又
 一 只至天橋丁小例通聖院並裏赤く焼る日雨敷の内杉規形乃多う板百枚
 中より同表方六形丁九ある山の者丁とまやけり但一赤例焼うまうら由方後川
 丁大は長屋敷百枚和川大丁大川を考事橋跡まであけり
 △ 涉るるのあま小池馬敷小屋を立給り人あまたを

- 一 金武朱り 西丁二形分 涉るるに丁 冥 升宮
- 一 白米と井つ 日引 在 辰立布
- 一 味噌汁と栲り 十月九日分 毎日後入 内田まらん
- 一 味噌二栲 栲平早栲 日山の宿丁 家指 伝 音
- 一 穀 二百奉 日仲丁 日 源三朱
- 一 涉 十貫文 日田表町と丁目 松中布
- 一 浮 彦 十栲 日西武丁目 三島森之布

浅草寺境内の観音堂西の破風

大い損と五重塔九輪もろ

荒沢堂奥稻荷西の宮のろ

日音院大神宮金比羅

松尾社老女弁天

不残潰る

雷神門の雷像まろびあつる

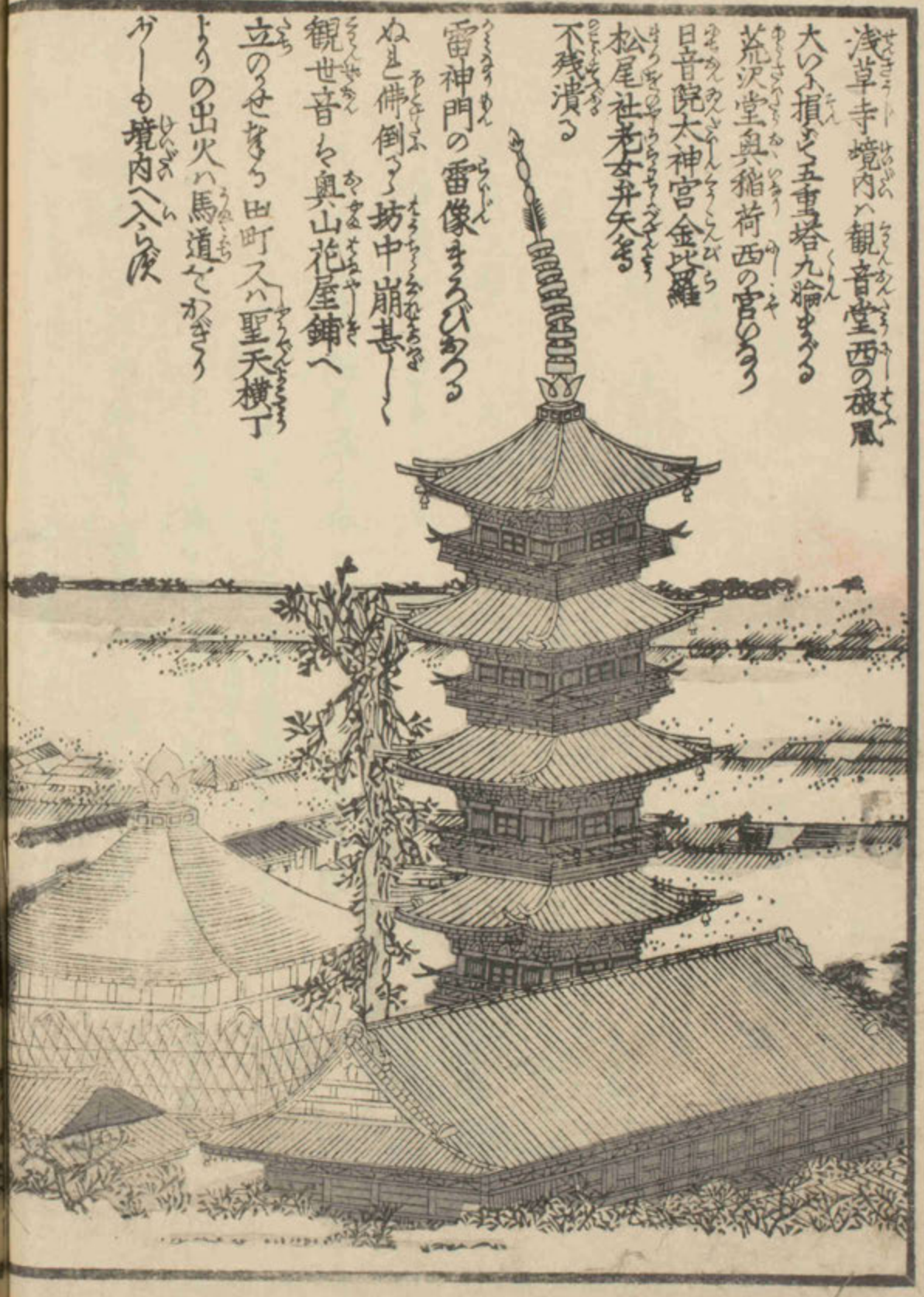
ぬと佛倒つ坊中崩甚

観世音と奥山花屋鋪へ

立のせまらう田町スハ聖天横丁

よりの出火の馬道をかきう

グーも境内へ入らぬ



北谷中谷の

寺院ろく

修ぐと上

焼亡

南谷の潰多

りとも欠

十月中大々奥山へ

諸人野宿

かり又遠若町の音請

新き由あり土着の外

とくお護電ふかりぬ



一 跡七根五貫支 舟、葉漢十五根

丁の神丁... 四人... 久...

一 味噌十樽

味噌... 安...

一 蟹月代五万石八分 曹後入

蟹月代... 曹後入

一 跡六十貫

跡六十貫... 曹後入

一 跡京川の東武松...

跡京川の東武松...

(其) 跡... 丁... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

跡... 跡... 跡... 跡...

為光寺の取立を下谷辻中久末之末河△同西方永照寺つあり丁宗源寺同つあり
 慶徳寺下谷直坂下小方武藏郡法寺院町家末大小為色漬^{ツキ}下とく^{ツキ}紀一^{ツキ}
 △入谷庚申寺小方正受寺良源院小大小為色漬^{ツキ}下とく^{ツキ}紀一^{ツキ}
 今村上ヶ岡法徳寺坂本東家丁色とく^{ツキ}とく^{ツキ}紀一^{ツキ}

一 今之十ヶ段之分 長丁四方へ群 上井坂丁 南村九ヶ段

〔荒〕下谷山崎丁武丁目山切丁焼日坂本丁子^コ日昌是丁車坂丁子正家寺
 つあり丁武藏郡町家末大小為

△上野寺東家正寛寺^{セキ}本寺寺^{セキ}長福寺古宮泰平同火除地宮様より
 乃般寺春達^{セキ}形以入た之由

一 今之十ヶ段 次瑞寺指又係 上野山崎丁 日影川中丸 井原寺 長云坊
 一 織武指費又 下ヶ下百是 下谷直坂丁 上野山崎丁 井原寺 長云坊
 一 白掛 寺勢元 此一入子 上野山崎丁 日影川中丸 井原寺 長云坊

○上野寺取一 春せん 冬二十又并 大塚屋、庄云坊
 一 菓子武百中 袋 儀草西仲丁 揚 屋 毎右より

〔三〕上野寺小坂為染寺云河山院寺南方焼磨利又天核丁上野丁寺丁目

武丁目焼日西末方下谷月朋丁と丁目西續之と上野御所中丸二丁目西谷直坂丁武丁目日代地
 慶徳寺下谷車坂丁製地大の丁南大の丁二丁下谷長考丁寺丁目武丁目日代地
 同西の丸山院寺丁色とく^{ツキ}の寺病御所中丸作^{ツキ}上野御所中丸山院寺又染
 野燒又同西南方長考丁二丁目末核丁とく^{ツキ}南御所山院寺授分末へ才丁焼日西
 小笠原系系中寺抄本屋大彼核井上筑後核上寺一丸末中方為火災^{ツキ}

〔世〕下谷直坂上方上野村馬つ丁目南方石川^{イノ}長核上屋敷馬田寺お核上野
 野燒日西武藏郡町家末大小為核お文の内お寺一ヶ岡も核上野

△谷中天皇の平寺寺大核九輪お初病る日つお初東屋丁八水丁日西方
 山林上つあり丁日西方新橋院日向別大寺寺同西末寺つあり丁末大彼核為

江戸の荒れは定まらぬ一箇中を分 井筒男

半町に十方丈ありは方丈ありて
土の多き葉と信又天井の枝小丸を
勝蓮と愛其上土と信と信入下の
さく不画方と一亦小今後の地を
性来平地と信又天井の枝小丸を
ありて古中階く地小丸ありの
何ぞ侍ありきことい揺れ
中亦其最荒れもの世にあら
○本は新所家不丸新長中
去る走日七也信信屋の中
日不板板七也信信屋の中



日不板板七也信信屋の中

日新。日三丁目新新日又丁目

一勢日六丁目新新日丸の葉取

日新其中新新新新新新新新新

日元町又勢。湯島天神門前

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢

日六丁目二勢新新日新丁一勢

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢

○神田外神社内二勢

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢

日新。日新本丁一勢日三組丁二勢



○亥小本明

新町ふ三河丸をさるる

ゆへにあつて流し流せめて最繁留

ありて其妻とよ女に二日の夜

は舟内を掃つる方舟の用事小

小使とせんを在へりる小杉や

右地表れて所那と狭き舟の更を返ん

とまふ小大し一衣初強して大船宮内さ

舟の中へ破ゆてとまふ小使とて方侍一衣

喫て居り入るる小使またたき舟や人をさ

強て根んとまらるる舟の舟内を掃つる根

舟のみ大船宮内は舟内を掃つる舟内を掃つる

船の形をく此舟をく多ふ其家船内さ

四方中火災起し舟内を掃つる舟内を掃つる

まら最危し右丸を掃つる舟内を掃つる

掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる

舟内を掃つる舟内を掃つる舟内を掃つる



井筒

一 白糸寺年中 外 今式意 北角町 物寺 田舎 寺 寺 寺 寺

△本心堂大被換遊分馬下 納豆富吉丁 日下若井院 日下丁 日下丁 日下丁 日下丁

△小倉大被換馬下 納豆富吉丁 日下若井院 日下丁 日下丁 日下丁 日下丁

△上野山林日下丁 日下丁 日下丁 日下丁 日下丁 日下丁 日下丁

△水乃橋より小石川口外大被換△水戸候泰平江之方武家町家大被換

△月雨方主妻橋東方定中殿採集谷荒川氏と申す丁 念焼

△牛天林下申す焼△焼色院申す申す外被換日下裏の辺馬下

△青羽樓持院大被換△大被換馬下△水乃丁と申す大被換△月白不動△後院

△鬼子母林申す申す日下町外被換△馬山法中住持地被換練る乃今と板地

△今年迎奏来下の考来来次といふ所のものも狐の懸て申す 右十月二日午朔

近きの人をきき申す今夜もあまの天女も申す何事も申す老と迎ふ我の

世今の地へを返るといふ其秋と尋んと止る人々と切是死 御座申すり方知

て成るる因之かみんくく為知と元行付く利社の傳とえて申是は地は其の

秋の如と地とささう後悔す一人も申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

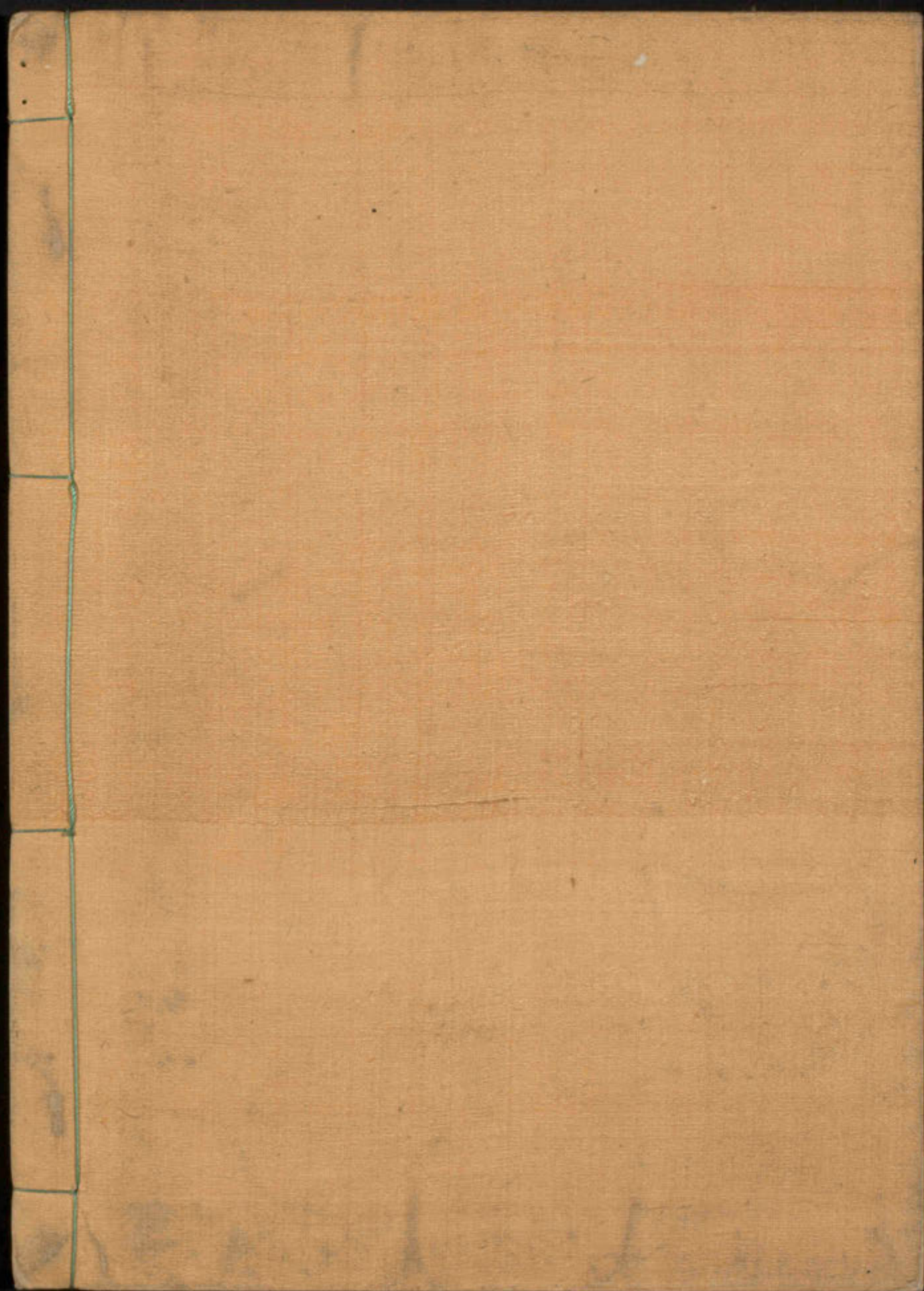
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

△本年の由候丁未年勇次より人あつて人吉本大墓墓の在能川と將りあつて程
 赤い人あつてつゝさせり切みきて指せよと要するの体布と云勇次へ曰出
 向由善因寺の毘沙門を信する也無事一人其指候事百室より何方
 自と尋らる也一二の由候と尋らるは佛示て曰是下今革命の相あつて候は
 子帰して是下不祥と云ふ御之御何由也と病いと云ふ候は自是下神佛と尋らる
 事と尋らる也と云へ人其其の事と尋らるは無御更事なりと尋らる事
 亦不御の事と尋らる事と云ふ一札を垂て歸家と云ふ事尋らる事と尋らる事
 へり事尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 不斗は候の事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 相尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 相尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 相尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 相尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事

△此等事人并諸を檢みて一々尋事成の二々探り病也向山ト云候事
 丁未年十月二日の美事二格の板戸を候せんと云ふ事と尋らる事
 指しと尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 らんと云候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 付せしむ其候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 志候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 無御事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 り人ト云ふ事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 候の事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 西より候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 大候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事
 候候事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事と尋らる事

表有りと云ふを是へ居てをさうと被二日小具雲の候をさるといふたど
 中さうと云ふぬは子の事痛を傷下 取固へ巻後を固とま依統の事
 と云ふらむ況ぬ実地の現終ぬ時其の中の者ともさうのり成だ
 △甲列の傍費又候しと云ふ人去年十月二日申仙道徳谷宿とらて江戸へ
 入と云ふと云ふ小具日何と云ふ人跡次の家と云ふと浦お宿にて日へ
 けさ其の家費の都合ありと云ふ中より七を教宿お宿おとて
 鶏聲が聞こえてありしは史列やとて時を道とてと云ふ所小北東の
 ちと云ふて云ふ中の中小青光りあるもの懸成のおとてのりさう
 さうと云ふところ小忽動搖の音まきとて恐怖とて地と小倒るる
 大地
 震きてと云ふこの家金の出ぬは小具揺る引裂くともさうと云ふ
 震のぞく更なる震と云ふと云ふ世もその地震の事始ありん
 ちと云ふ客の事申と云ふもの候もさうと云ふ人の口から云ふ



129

6
3

安政見聞錄

中

